併存する精神障害としては、「F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」が認められる者が最も多かった。『覚せい剤症例』に見られる精神病症状を、F1 診断である「残遺性障害・遅発性精神病性障害」もしくは「精神病性障害」と見なすか、F2 診断と見なすかについては、様々に見解が別れるところであるが、いずれにしても、覚せい剤と精神病症状とが密接な関連を持っていることについては間違いないと思われた。

(8) 自己破壊的行動

『覚せい剤症例』では、過去 1 年以内の自傷や自殺企図の挿話は、全体で 10.5%、男性で 5.6%、女性で 24.7%であった。この数値自体は十分に高いものであるが、『有機溶剤症例』や他の医薬品の乱用者に比べると比較的低かった。自傷・自殺企図の挿話を持つ『覚せい剤症例』の大半は、過去 1 年以内に複数回、こうした自己破壊的行動を繰り返していたが、自傷・自殺企図の方法としては、他の薬物乱用者に比べて特徴的なものは認められなかった。

(9) 受診経路

『覚せい剤症例』の受診経路は、他の薬物と同様、「自発的な受診」（24.6%）や「周囲のすすめ」（19.0%）が多かったが、他の薬物には見られない特徴として、「刑事司法機関」（11.3%）や「民間リハビリ施設・自助グループ」（17.8%）からの紹介による受診者が一定数認められた。刑事司法機関からの紹介については、覚せい剤が規制薬物であることを反映したものと思われる。また、民間リハビリ施設・自助グループについては、刑事司法施設出所者がダルクを経て精神科医療機関に受診している状況を反映している可能性がある。

2) 有機溶剤

(1) 『症例』の概観

『有機溶剤症例』は全対象の 8.3%であり、薬物関連障害患者に占める割合は調査のたびに減少傾向を示しており、今回の調査では覚せい剤に次ぐ乱用薬物第 2 位を『睡眠薬・向精神薬症例』に譲っている。ただし、有機溶剤使用歴のある者は全体の 38.2%も存在した。これは、かつてわが国におけるゲートウェイ・ドラッグであったことのなごりといえるかもしれない。

(2) 年齢・性別の特徴

『有機溶剤症例』の平均年齢［標準偏差］は 38.5［10.5］歳であり、男性では 10 歳代から 60 歳代までほぼまんべんなく分布していたのに対し、女性では 10 歳代～40 歳までと、男性に比べて年代の広がりは狭かった。性差については、『有機溶剤症例』の 80.5%が男性と、男性に偏った性別構成となっている。

(3) 使用した有機溶剤の種類

『有機溶剤症例』が使用していた有機溶剤の種類としては、例年通り、シンナーが最多で 60.0%、次いでトルエンが 20.0%、ラッカーとボンドがそれぞれ 16.7%、ガス類は 13.3%であった。

(4) 反社会的集団との関係および司法的対応の経験

『有機溶剤症例』は、『覚せい剤症例』に比べると暴力団との関係を持つ者の割合は少ないものの、非行グループとの関係、逮捕・補導歴、矯正施設入所歴は『覚せい剤症例』とほぼ同等の割合の高く、反社会的生活背景を持っている者の割合が高いことが示唆された。

(5) 初使用の契機

『有機溶剤症例』の初回使用の動機は、『覚せい剤症例』と同様、「誘われて」（37.5%）と「好奇心・興味から」（50.0%）が突出して多く、初使用には非行グループの仲間からの影響が大きい可能性が推測される。

(6) 精神医学的診断

ICD-10 における主要な F1 診断としては、「依存症候群」（46.4%）が最も多かったが、覚せい剤ほどではないにしても、「精神病性障害（物質中断後 6 ヶ月以上）」（17.9%）や「残遺性障害・遅発性精神病性障害」（23.2%）も目立った。精神科臨床の現場では、覚せい剤と並んで、有機溶剤による慢性持続性の精神病状態が治療上の課題となっていることが示唆される。

(7) 併存精神障害

併存精神障害の ICD-10 診断には、他の薬物と比べて顕著な特徴は認められなかった。そのようななかで、比較的多く認められたのは、「F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」

（14.3%）、「F3 気分（感情）障害」（16.1%）、「F6 成人の人格および行動の障害」（14.3%）であった。

(8) 自己破壊的行動

『有機溶剤症例』における過去1年以内の自傷・自殺企図経験者は12.5%であり、他の薬物乱用者に比して決して多いとはいえず、その大半が1年以内に複数回行われていた点は、他の薬物乱用者と同様であった。しかし、『有機溶剤症例』では、自傷・自殺企図経験者における「縊首」経験者（49.2%）の割合が他の薬物に比べて著明に多い点は注意する必要がある。こうした致死性の高い手段…方法による自己破壊的行動は、近い将来における自殺既遂の重要な予測因子である。

(9) 受診経路

『有機溶剤症例』の受診経路は、「周囲のすすめ」（34.6%）と「医療機関からの紹介（23.1%）」が多かった。

3) 大麻

(1) 『症例』の概観

『大麻症例』は、全体の2.7%を示し、その割合は決して多くはないものの、前回調査に比べると、微増を示している。使用歴のある薬物における大麻の割合も、前回調査に比して微増していたことから、今後も大麻乱用の拡大については十分に注意を要するといえるであろう。

(2) 年齢・性別の特徴

『大麻症例』の平均年齢［標準偏差］は27.8［7.1］歳と、他の薬物の乱用者に比べて著明に若年であり、年齢分布も20～30歳代に集中していた。性別の構成では、『覚せい剤症例』や『有機溶剤症例』と同様、男性が圧倒的多数を占めていた（男性率78.9%）。

(3) 使用した大麻の種類

『大麻症例』の85%が初回使用時にはマリファナ（大麻タバコ）を用いており、マリファナが持つ、タバコ感覚の心理的抵抗感の乏しさが初使用に大きな影響を与えている可能性が考えられる。

(4) 反社会的集団との関係および司法的対応の経験

『大麻症例』は、『覚せい剤症例』や『有機溶剤症例』と同様、暴力団と関係を持っている者（55.5%）、非行グループと関係を持っている者（77.8%）、逮捕・補導歴のある者（50.0%）、矯正施設入所歴を持つ者（38.9%）が多く見られた。このことは、規制薬物乱用者に特徴的な背景であると考えられた。

(5) 初使用の契機

『大麻症例』の初使用の契機となった人物は、『覚せい剤症例』や『有機溶剤症例』と同様に、「同性の友人」（50.0%）が最も多かった。また、初使用の動機についても、やはり『覚せい剤症例』や『有機溶剤症例』と同様に、「誘われて」（61.1%）と「好奇心・興味から」（55.6%）が突出して多かった。これらの結果は、非行グループ仲間からの圧力が初使用に影響している可能性を想像させる。

(6) 精神医学的診断

ICD-10におけるF1診断としては、個別のカテゴリーとしては「依存症候群」（33.3%）が最も多いが、「精神病性障害（物質中断6ヶ月以内）」（22.2%）、「精神病性障害（物質中断6ヶ月以上）」（22.2%）、および「残遺性障害・遅発性精神病性障害」（11.1%）といった、精神病症状を呈する病像を合計すると、全体の半数以上を占めており、精神科臨床現場では『大麻症例』の精神病症状が重要な治療対象となっている状況がうかがわれる。

(7) 併存精神障害

『大麻症例』の併存精神障害としては、「F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」（11.1%）、「F3 気分（感情）障害」（11.1%）、および「F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」（11.1%）がそれぞれ同じ比率で認められた。ただ、F1主要診断として精神病像を呈する病態が多かったことを考えると、併存診断でもF2診断がつく者が少なくなかったという結果は、大麻と精神病症状との密接な関連を示唆するものといえるであろう。

(8) 自己破壊的行動

『大麻症例』では、過去1年以内に自傷・自殺企図などの自己破壊的行動の挿話を持つ者は16.7%であり、医薬品を主たる薬物とする薬物関連障害患者に比較すれば、若干少ない。また、自

己破壊的行動の多くは複数回以上反復されているのは、他の薬物乱用者と同様であるが、その様式は自己切傷に限定され、致死性の高い手段・方法を用いているものは認められなかった。

(9) 受診経路

『大麻症例』の受診経路として最も多かったのは「周囲のすすめ」（23.5%）であったが、それに次いで、「医療機関からの紹介」（17.6%）、「保健福祉・行政機関からの紹介」（17.6%）、および「刑事司法施設」（17.6%）がほぼ同程度で認められた。

4) 睡眠薬・抗不安薬

(1) 『症例』の概観

『睡眠薬・抗不安薬症例』は、1996年以降、薬物関連障害に占める割合を確実に増やしつづけており、今年度は全体の17.7%を占めて、覚せい剤に次ぐ第2の乱用薬物となった。睡眠薬・抗不安薬の使用歴を持つ患者の割合も44.3%と、前回調査時よりも高い割合を示しており、睡眠薬・抗不安薬の乱用が広く浸透しつつある可能性が推測される。なお、乱用前職業としては、「会社員」（11.4%）と並んで「医療薬業関係」（11.4%）がやや目立ち、薬物にアクセスしやすい職業ということで、医療関係者に対する予防啓発の必要性があると考えられた。

(2) 年齢・性別の特徴

『睡眠薬・抗不安薬症例』の平均年齢［標準偏差］は38.0［13.1］歳であり、その年代の分布は10歳～60歳代までと広い。『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』と大きな違いはこの性別構成にあり、『睡眠薬・抗不安薬症例』における男性の割合は47.1%と、女性の方が多くなっている。

(3) 使用される睡眠薬・抗不安薬

睡眠薬および抗不安薬の使用経験者で多く使用されている薬剤名は、睡眠薬としては、すでに表29で提示したように、フルニトラゼパム（40症例）、トリアゾラム（28症例）、ニトラゼパム（6症例）、プロチゾラム（5症例）、プロムワレリル尿素（4症例）といった、精神科治療に用いられる処方薬の他に、「ウット」（9症例）のような市販薬も認められた。一方、抗不安薬では、使用頻度上位の薬剤は、エチゾラム（32症例）、ジアゼパム（10症例）、アルプラゾラム（9症例）であった。なお、『睡眠薬・抗不安薬症例』の57.5%が「精神科医師」から乱用薬物を入手していた。

(4) 反社会的集団との関係および司法的対応の経験

『睡眠薬・抗不安薬症例』の場合、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』とは異なり、「暴力団との関係」（27.7%）、「非行グループとの関係」（33.6%）、「逮捕・補導歴」（27.7%）、「矯正施設入所歴」（11.8%）と、反社会的集団との交流を持つ者、ならびに、司法的対応を受けた経験を持つ者は明らかに少なかった。これは、医薬品の乱用者の特徴として妥当なものと思われる。しかし、別の観点から見れば、医療機関で処方される薬物の乱用者といえども、一定の割合で反社会的集団との関係を持つ者や司法的対応を受けたことのある者が存在すると捉えることもできるかもしれない。

(5) 初使用の契機

『睡眠薬・抗不安薬症例』における初回使用の動機としては、「不眠の軽減」（42.9%）と「不安の軽減」（26.1%）が目立って多かった。『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』で多く見られた、「誘われて」（7.6%）や「好奇心・興味から」（7.6%）といった理由からに初使用におよんだ者はきわめて少なかった。『睡眠薬・抗不安薬症例』の場合には、精神医学的問題に対する、不適切な自己治療として側面がある可能性が推測される。また、初使用の契機となった人物としては、「精神科医師」（33.3%）が最も多く、次いで「自発的使用」（25.2%）であり、規制薬物のように、反社会的集団の仲間からの圧力よりも、精神科治療の過程で、あるいは、自らの選択として乱用におよんでいることがうかがわれた。

(6) 精神医学的診断

『睡眠薬・抗不安薬症例』におけるICD-10のF1診断としては、圧倒的な「依存症候群」（64.0%）が多く、『覚せい剤症例』や『大麻症例』のように、精神病症状を呈する病態を主要なF1診断とする者はいなかった、このことは、睡眠薬・抗不

安薬の薬理作用から考えてごく当然の結果である。むしろ精神科臨床の現場で問題となっているのは、「使用がコントロールできない」という依存症そのものであり、そうした事態は、『睡眠薬・抗不安薬症例』における過去1年以内ならびに過去1ヶ月以内の睡眠薬や抗不安薬使用が、他の規制薬物に比べて顕著に高率であることからもうかがわれる。なお、こうした最近の当該薬物使用率の高さは、後述するように、『睡眠薬・抗不安薬症例』では、薬物療法を継続すべき他の精神障害の併存率の高さとも関係している可能性がある。

(7) 併存精神障害

『睡眠薬・抗不安薬症例』の45%に「F3 気分（感情）障害」の併存が認められ、一方、「F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」の併存が認められた者はわずか0.8%にとどまった。これは、「F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」の併存が非常に高率であった『覚せい剤症例』と対照的な特徴といえた。なお、『睡眠薬・抗不安薬症例』では、「F6 成人の人格および行動の障害」（25.2%）の併存も目立った。

(8) 自己破壊的行動

『睡眠薬・抗不安薬症例』では、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』に比べて、過去1年以内に自傷や自殺企図におよんでいた者が多かった（33.6%）。その多くが、複数回以上の挿話を呈していたが、こうした自己破壊的行動の様式には特徴があり、そうした患者の7割が「医薬品の服薬」、つまり、いわゆる「過量服薬（通称、『オーバードーズ』）」におよんでいた。このことは、『睡眠薬・抗不安薬症例』では、単に睡眠薬や抗不安薬の依存的使用をするだけでなく、自己破壊的意図から過量摂取する者が多いことを意味している。

(9) 受診経路

『睡眠薬・抗不安薬症例』の受診経路は、「医療機関からの紹介」（45.9%）が最も多く、次いで、「周囲の勧め」（34.2%）であり、この二つで全体の8割を占めていた。乱用薬物の特性を反映して、「刑事司法機関からの紹介」（2.7%）であった。

5) 鎮痛薬

(1) 『症例』の概観

『鎮痛薬症例』は全体の1.8%であった。乱用前の職業として、「医療薬業関係」（16.7%）が最も多かった点がやや気にかかる結果であった。麻薬系鎮痛薬へのアクセスの良さが使用契機として影響している可能性がある。

(2) 年齢・性別の特徴

『鎮痛薬症例』の平均年齢［標準偏差］は、46.2［8.9］歳であり、年代としては、30～40歳代以降の中高年以降の年代に分布している。性別の構成は、男性率が66.7%とやや男性に多い。

(3) 使用される薬剤の種類

鎮痛薬使用経験者で用いられている薬剤としては、ナロン（8例）やセデス（6例）といった市販薬とともに、ソセゴン・ペンタジン（8例）といった非麻薬性鎮痛薬も認められた。

(4) 反社会的集団との関係および司法的対応の経験

『鎮痛薬症例』では、「暴力団との関係」（16.7%）、「非行グループとの関係」（25.0%）、「逮捕・補導歴」（16.7%）、「矯正施設への入所歴」（16.7%）のいずれも比較的低率であり、すべての薬物乱用者のなかで最も反社会的集団との関係が乏しく、司法的対応を受けた経験者が少なかった。

(5) 初使用の契機

『鎮痛薬症例』における初使用の動機は、「疼痛の軽減」（30.8%）が最も多く、次いで「ストレス解消」（23.1%）と「不安の解消」（23.1%）であった。『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』で多く見られた、「誘われて」（0.0%）という動機から初使用した者は1人もいなかった。その意味では、『睡眠薬・抗不安薬症例』と同様、苦痛に対する自己治療的な目的から乱用を開始している可能性が推測された。また、初使用の契機となった人物としては、乱用される薬剤の多くが市販薬であることを反映してか、「自発的使用」（23.1%）がもっと多く、次いで、麻薬系鎮痛剤の場合に該当すると思われる「身体科医師」（16.7%）であった。

(6) 精神医学的診断

『鎮痛薬症例』の ICD-10 の主要な F1 診断では「依存症候群」が 76.9%を占め、精神病像に関連する診断カテゴリーに該当した者は 1 名（7.7%）にとどまり、『睡眠薬・抗不安薬症例』と似たパターンを呈した。

(7) 併存精神障害

『鎮痛薬症例』では、61.5%に「F3 気分（感情）障害」の併存が認められ、『睡眠薬・抗不安薬症例』と同様、気分障害との密接な関連が推測される。

(8) 自己破壊的行動

『鎮痛薬症例』における過去 1 年以内の自傷・自殺企図の発生率は、すべての薬物乱用者のなかで最も高かった。このことは、「F3 気分（感情）障害」の高い併存率と関連している可能性がある。なお、こうした自己破壊的行動の様式として最も多かったのは、「医薬品の服薬」（過量服薬）によるものであった。

(9) 受診経路

『鎮痛薬症例』の受診経路については、「医療機関からの紹介」（45.9%）と「周囲の勧め」（34.2%）がその大半を占め、ここでも『睡眠薬・抗不安薬症例』と同じ特徴が認められた。

6) 鎮咳薬

(1) 『症例』の概観

『鎮咳薬症例』は全対象の 3.0%であり、前回調査（2.8%）とほぼ横ばいの結果であった。

(2) 年齢・性別の特徴

『鎮咳薬症例』の平均年齢［標準偏差］は 36.5［8.9］歳であり、年代は 20～50 歳代まで比較的幅広く分布していた。また、乱用者の 75.0%が男性であった。

(3) 使用されていた薬剤の種類

鎮咳薬使用経験者が用いた薬剤としては、ブロン液（18 例）、ブロン錠（11 例）、トニン液（5 例）であった。

(4) 反社会的集団との関係および司法的対応の経験

『鎮咳薬症例』では、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』に比べると、「暴力団との関係」（15.0%）、「非行グループとの関係」（40.0%）、「逮捕・補導歴」（30.0%）、「矯正施設への入所歴」（15.0%）が認められる者は少なかった。

(5) 初使用の契機

『鎮咳薬症例』における初使用の動機としては、「誘われて」（50.0%）が最も多く、それに次いで「好奇心・興味から」（25.0%）であった。また、初使用の契機となった人物としては、「同性の友人」（40.0%）が最も多かった。以上の初使用の状況は、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』と同じパターンである。鎮咳薬の場合、睡眠薬・抗不安薬や鎮痛薬症例とは異なり、医薬品でありながらもドラッグカルチャーのなかで一定の価値を持っている可能性がある。

(6) 精神医学的診断

『鎮咳薬症例』における ICD-10 の主要な F1 診断は、大半が「依存症候群」（89.5%）であった。

(7) 併存精神障害

『鎮咳薬症例』の併存診断としては、「F3 気分（感情）障害」（25.0%）、「F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」（20.0%）、「F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」（15.0%）などが認められた。

(8) 自己破壊的行動

『鎮咳薬症例』の 25.0%に、過去 1 年以内の自傷・自殺企図が認められた。自傷の様式として最も多かったのは、「四肢に対する自己切傷」であった。

(9) 受診経路

『鎮咳薬症例』の受診経路として最も多かったのは、「民間リハビリ施設・自助グループ」（35.0%）であった。乱用薬物の特性として、司法機関でも医療期間でも事例化しにくいのかもしれない。

7) メチルフェニデート（リタリン）

(1) 『症例』の概観

前回調査では『リタリン症例』は 2 例（0.7%）、リタリン使用歴を有する症例は 7 例（2.5%）であったが、今回の調査では『リタリン症例』は 9 例（1.3%）、リタリン使用歴を有する症例は 47 例（7.0%）であった。また、『リタリン症例』のうち、過去 1 年以内にリタリンを使用した者は 4 例

(44.4%)存在した。2007年から2008年にかけて、リタリンの保険適用がナルコレプシーのみとなり、処方・調剤および流通管理の厳格化がはかられたが、今回の調査結果を見るかぎり、必ずしも十分な対策となり得ていない可能性が推測される。

(2) 年齢・性別の特徴

『リタリン症例』の平均年齢[標準偏差]は32.7[6.8]歳であり、年代の分布は20～40歳代であった。『リタリン症例』の77.8%は男性であった。

(3) 反社会的集団との関係および司法的対応の経験

『リタリン症例』では、反社会的集団との関係を持つ者、ならびに、司法的対応を受けた経験を持つ者は比較的少なかった。

(4) 初使用の契機

『リタリン症例』の44%が初使用の動機として「抑うつ気分の軽減」という、自己治療的意味を帯びた理由をあげていた。また、初回使用の契機となった人物、ならびに、その後の入手経路として最も多いものが、「精神科医師」(それぞれ44%と55%)であった。

(5) 精神医学的診断

『リタリン症例』におけるICD-10の主要なF1診断は、「依存症候群」(88.9%)であった。

(6) 併存精神障害

『リタリン症例』の併存診断としては、「F2統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害」(22.2%)、「F3 気分(感情)障害」(11.1%)などが認められた。初回使用の動機として、「抑うつ気分の軽減」が多く認められた割には、気分障害の併存診断が少なかった。その理由については、今回の調査データからは十分に説明できないが、比較的最近でも使用している者が44.4%存在することから、リタリンの離脱状態と気分障害との鑑別診断が困難であった可能性も考えられる。

(7) 自己破壊的行動

『リタリン症例』の22.2%に、過去1年以内における自傷もしくは自殺企図の挿話が複数回認められた。その様式としては、「四肢に対する自己切傷」もしくは「医薬品の服薬」であった。

(8) 受診経路

『リタリン症例』の受診経路は様々であったが、「刑事司法機関」を経由しての受診者はひとりも存在しなかった。薬物の特性を考慮すれば、当然の結果と思われる。

8) その他

症例全体で使用歴があると報告されたその他の薬物には、主に以下のようなものがあった。

- コカイン　72例
- ヘロイン　24例
- MDMA　70例
- マジックマッシュルーム　36例
- LSD　55例

この数値は、前回調査の3倍以上の数値である。今回の調査は、調査対象医療施設の回答率や収集した症例数が前回を大きく上回っているために、直接的な比較には慎重であるべきであるが、コカインの検挙人員が増加傾向にあることなどを考慮すれば、無視できない結果である。

なお参考までに、上記薬物の過去1年以内および1ヶ月以内における使用者数を以下に示しておく。

(過去1年以内)

- コカイン　3例
- ヘロイン　2例
- MDMA　3例
- マジックマッシュルーム　0例
- LSD　2例

(過去1年以内)

- コカイン　0例
- ヘロイン　1例
- MDMA　1例
- マジックマッシュルーム　0例
- LSD　0例

E. 結論

1. 全国の精神科病床を有する医療施設1,612施設を対象に、薬物関連精神疾患の実態調査を郵送法にて試行し、1,021施設(63.3%)から723症例の報告を得た。今回の報告書では、このうち、性別・年齢・主たる薬物の種類に関するデータ欠陥のない671症例(男性475

例、女性196例）を分析の対象とした。

2. 主たる使用薬物別にみた場合、671 症例の内訳は、『覚せい剤症例』が361例で報告症例全体の53.1%と最も高い割合を占め、次いで『睡眠薬・抗不安薬症例』119 例（17.7%）、『多剤症例』57例（8.5%）、『有機溶剤症例』56 例（8.3%）、『鎮咳薬症例』20 例（3.0%）、『その他症例』19例（2.8%）、『大麻症例』18例（2.7%）、『鎮痛薬症例』12 例（1.8%）、『リタリン症例』9例（1.3%）という順であった。

3. 本年度調査から得られた結果のなかで最も重要なのは、本調査開始以来、わが国においてつねに覚せい剤に次ぐ第2位の乱用薬物が、従来の有機溶剤から睡眠薬・抗不安薬へと代わったということであろう。『睡眠薬・抗不安薬症例』はこの十数年、増加傾向が持続しており、今日の薬物依存臨床において大きな治療課題となっている状況がうかがわれた。

4. 薬物関連精神疾患症例は、その背景や病態から二つの類型に整理して考えることができた。一つの類型は、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』に代表される規制薬物乱用者群である。この群は、反社会的集団との関連を持つ者が多く、司法的対応を受けた経験を有する者が多く、仲間からの誘惑や好奇心興味から初回使用に至っていた。精神科臨床の場面では、依存自体もさることながら、慢性持続性の精神病像が重要な治療的課題となっていた。

5. もう一つの類型は、『睡眠薬・抗不安薬症例』、『鎮痛薬症例』、『リタリン症例』などに代表される医薬品乱用群である。この群は、反社会的集団との関連は比較的少なく、司法的対応を受けた経験を有する者も少ない。しばしば不眠、不安、疼痛、抑うつ気分への対処として初回使用し、主要な薬物の入手経路として医師（特に精神科医師）や薬局があげられる。精神科臨床現場での主要な治療課題は依存であり、しばしば気分障害やパーソナリティ障害を併存し、自傷・自殺企図といった自殺関連行動を繰り返す者も少なくない。

6. 今年度の調査では、精神科治療薬乱用症例154例の検討も行った。その臨床的特徴は、『睡眠薬・抗不安薬症例』のそれと一致していたが、非常に多く乱用されていた精神科治療薬として、フルニトラゼパム、トリアゾラム、エチゾラム、ゾルピデム、ブロチゾラム、ベゲタミン®、メチルフェニデート（リタリン）などが判明した。このことから、保険適用の制限や処方・調剤・流通過程の厳格化にも関わらず、依然としてリタリン乱用問題は完全には解決していない可能性が示唆されるとともに、今後、精神科治療薬の適正使用に関する対策が急がれると考えられた。

謝　辞

ご多忙の中，本実態調査にご協力いただきました全国の精神科医療施設の医師の皆様ならびに関係者の方々，患者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

F．研究発表

1. 論文発表

1) 小林桜児，松本俊彦，千葉泰彦，今村扶美，森田展彰，和田　清：少年鑑別所入所者を対象とした日本語版 SOCRATES（Stages of Change Readiness and Treatment Eagerness Scale）の因子構造と妥当性の検討．日本アルコール・薬物医学会誌 45（5）：437-451, 2010.

2) 今村扶美，松本俊彦，小林桜児，平林直次，和田 清：国立精神・神経医療研究センター病院における物質使用障害治療プログラムの開発と効果測定．日本アルコール・薬物医学会誌 45（5）：452-463, 2010.

3) 松本俊彦，千葉泰彦，今村扶美，小林桜児，和田 清：少年鑑別所における自習ワークブックを用いた薬物再乱用防止プログラムの試み～重症度による介入効果の相違に関する検討．精神医学 52（12）：1161-1171, 2010.

4) 松本俊彦：物質使用と暴力および自殺行動との関係．日本アルコール・薬物医学会雑誌 45（1）：13-24, 2010

5) 今村扶美，松本俊彦：医療観察法病棟における薬物依存症治療．こころのりんしょう *à-la-carte* 29 (1)：91-96，2010
6) 松本俊彦：薬物依存臨床における司法的問題への対応．こころのりんしょう *à-la-carte* 29 (1)：113-119，2010
7) 松本俊彦：アディクション—精神科医が「否認」する「否認の病」．精神科治療学 25 (5)：565-571，2010
8) 松本俊彦：DSM-5 における物質関連障害．精神科治療学 25：1077-1081，2010
9) 松本俊彦，小林桜児：精神作用物質使用障害の心理社会的治療：再乱用防止のための認知行動療法を中心に．精神神経学雑誌 112 (7)：672-676，2010
10) 松本俊彦：薬物依存症～精神科医療関係者の「否認」する「否認の病」，財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターNEWS LETTER 2010.8・第 83 号：2-5，2010
11) 松本俊彦：アルコール・薬物依存症と摂食障害との併存例をめぐって．精神神経学雑誌 112 (8)：766-773，2010
12) 松本俊彦：第 2 章 精神作用物質使用による精神および行動の障害 4．覚せい依存の心理社会的治療．精神科治療学 25 増刊号「今日の精神科治療ガイドライン，68-71，2010
13) 松本俊彦：物質依存症—治療戦略に役立つ生活歴、現病歴、家族関係．精神科治療学 25 (11)：1489-1496，2010
14) 松本俊彦：薬物臨床の最前線 SMARPP が丸ごとわかる！第1回 スマープ誕生前夜—マトリックス・モデルとの出会い．季刊 Be! 101 号 2010.12：74-78，2010
15) 松本俊彦：覚せい剤依存症の精神療法—患者と家族に対する初回面接の工夫—．臨床精神医学 39 (12)：1583-1587，2010
16) 松本俊彦：Ⅶ章 思春期における心の問題—薬物乱用．日野原重明・宮岡 等監修 飯田順三編集 脳とこころのプライマリケア 4，pp448-458，株式会社シナジー，東京，2010
17) 松本俊彦：精神科医療 薬物依存．精神保健福祉白書編集委員会精神保健福祉白書 2011 年版 岐路に立つ精神保健福祉医療—新たな構築をめざして．pp153，中央法規出版，東京，2010
18) 松本俊彦：マトリックスモデルとは何か？ 治療プログラムの可能性と限界．龍谷大学矯正・保護研究センター編龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報 No. 7. pp63-75，龍谷大学矯正・保護研究センター，京都，2010

2. 学会発表

1) 松本俊彦：アルコール・薬物依存症と摂食障害との併存例をめぐって．シンポジウム 26「精神障害が併存するアルコール依存症の病態と治療」．第 106 回日本精神神経学会学術総会，2010. 5. 21，広島．
2) 今村扶美，松本俊彦，千葉泰彦，小林桜児，和田清：少年鑑別所における自習ワークブックを用いた薬物再乱用防止プログラムの開発とその効果～重症度による介入効果の検討～．第 6 回日本司法精神医学会大会，2010. 6. 4，東京大学．
3) 今村扶美，松本俊彦，小林桜児，平林直次，和田清：医療観察法指定入院医療機関における「物質使用障害治療プログラム」の開発とその効果．第 6 回日本司法精神医学会大会，2010. 6. 4，東京大学．
4) 小林桜児，今村扶美，根岸典子，若林朝子，松本俊彦，和田 清：国立精神・神経医療研究センター病院薬物専門外来受診者の臨床的特徴．東京精神医学会第 89 回学術集会．2010. 7.10，北里大学薬学部コンベンションホール．
5) 松本俊彦：専門講座Ⅱ 自傷行為の理解と援助～アディクションと自殺のあいだ．第 32 回日本アルコール関連問題学会，2010. 7. 16，神戸
6) 宮田久嗣，松本俊彦：3 学会合同シンポジウム 1「“物質”と“物質によらない”嗜癖行動の共通点と差異：問題提起」，平成 22 年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会，2010. 10. 7，小倉
7) 松本俊彦：3 学会合同シンポジウム 4「物質使用障害と自傷・自殺～最近の研究から」，平成 22 年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会，2010. 10. 7，小倉

8) 小林桜児，松本俊彦，千葉泰彦，今村扶美，森田展彰，和田　清：少年鑑別所入所者を対象とした日本語版 SOCRATES の因子構造と妥当性の検討．平成 22 年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会，2010．10．8，小倉．

9) 今村扶美，松本俊彦，小林桜児，和田清：医療観察法指定入院医療機関における「物質使用障害治療プログラム」の開発とその効果．平成 22 年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会，2010．10．8，小倉．

10) 田中紀子，矢澤祐史，松本俊彦：奈良ダルクによる新しいとりくみ：Recovery Dynamics Program 導入による効果観察．平成 22 年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会，2010．10．8，小倉．

11) 松本俊彦：嗜癖問題と自傷・自殺．シンポジウム「自殺予防と嗜癖」，第 21 回日本嗜癖行動学会，2010．11．21，岡山衛生会館

12) 松本俊彦・小林桜児：ワークショップ 19 薬物依存症の認知行動療法～マニュアルとワークブックにもとづく統合的外来治療プログラム．第 36 回日本行動療法学会，2010．12．4，愛知県産業労働センター「ウインクあいち」．

3. その他

なし

G．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

文献

厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課（2010）麻薬・覚せい剤行政の概況．厚生労働省．

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課長通知：「向精神薬等の過量服薬を背景とする自殺について」．2009 年 6 月 24 日．

厚生労働省自殺・うつ病等対策プロジェクトチーム「過量服薬への取組～薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて～」．2009 年 9 月 9 日．

尾崎　茂，和田　清，大槻直美（2009）全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査．平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究（研究代表者　和田　清）」研究報告書，p. 87-134.

表1: 精神科医療施設の種別と回答状況

		総施設数		回答あり施設数*		回答のあった施設数と症例数						
						症例報告あり					症例なし	
						施設数**		報告症例数		1施設あたりの症例数	施設数	
国立病院機構		44	2.7%	32	72.7%	20	45.5%	87	12.0%	4.4	12	27.3%
自治体病院	都道府県立病院	72	4.5%	57	79.2%	26	36.1%	165	22.8%	6.3	31	43.1%
	市町村立病院	67	4.2%	40	59.7%	11	16.4%	33	4.6%	3.0	29	43.3%
大学医学部付属病院		83	5.1%	55	66.3%	14	16.9%	21	2.9%	1.5	41	49.4%
民間病院		1346	83.5%	837	62.2%	64	4.8%	417	57.7%	6.5	479	35.6%
計		1612	100.0%	1021	63.3%	135	8.4%	723	100.0%	5.4	592	36.7%

（回答あり施設数*、症例報告あり施設数**には、「回答拒否例（計230例）」を報告した施設を含む）

表2: 主たる使用薬物

	主たる使用薬物					
	男性 N=475		女性 N=196		全体 N=671	
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率
覚せい剤	268	56.4%	93	47.4%	361	53.8%
有機溶剤	43	9.1%	13	6.6%	56	8.3%
大麻	14	2.9%	4	2.0%	18	2.7%
睡眠薬・抗不安薬	56	11.8%	63	32.1%	119	17.7%
鎮痛薬	8	1.7%	4	2.0%	12	1.8%
鎮咳薬	15	3.2%	5	2.6%	20	3.0%
リタリン	7	1.5%	2	1.0%	9	1.3%
その他	17	3.6%	2	1.0%	19	2.8%
多剤	47	9.9%	10	5.1%	57	8.5%

表3: 使用歴のある薬物

	使用歴のある薬物					
	男性 N=475		女性 N=196		全体 N=671	
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率
覚せい剤	338	71.2%	111	56.6%	449	66.9%
有機溶剤	206	43.4%	50	25.5%	256	38.2%
大麻	142	29.9%	38	19.4%	180	26.8%
コカイン	55	11.6%	17	8.7%	72	10.7%
ヘロイン	18	3.8%	6	3.1%	24	3.6%
MDMA	46	9.7%	24	12.2%	70	10.4%
マジックマッシュルーム	30	6.3%	6	3.1%	36	5.4%
LSD	45	9.5%	10	5.1%	55	8.2%
睡眠薬・抗不安薬	178	37.4%	119	60.7%	297	44.3%
鎮痛薬	26	5.5%	23	11.7%	46	7.3%
鎮咳薬	43	9.1%	9	4.6%	52	7.7%
リタリン	34	7.2%	13	6.6%	47	7.0%
その他	24	5.1%	11	50.0%	34	5.1%

表4: 主たる使用薬物による薬物関連障害症例の年齢分布（データ欠損のない665症例の分析）

年齢		全体		覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～19	人数	9	9	2	4	2	1	1	1	1	3							1		2	
	百分率	1.9%	4.6%	22.4%	44.4%	22.2%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	33.3%							11.1%		22.2%	
20～29	人数	57	50	17	23	5	3	7		12	17			3	2	2	1	4	1	8	2
	百分率	12.1%	25.6%	29.8%	46.0%	8.8%	6.0%	12.3%		21.1%	34.0%			5.3%	4.0%	3.5%	2.0%	7.0%	2.0%	14.0%	4.0%
30～39	人数	153	75	81	38	12	5	5	3	18	19	4	2	6	2	4		4	1	18	6
	百分率	32.6%	38.5%	52.9%	50.7%	7.8%	6.7%	3.3%	4.0%	11.8%	25.3%	2.6%	2.7%	3.9%	2.7%	2.6%		2.6%	1.3%	11.8%	8.0%
40～49	人数	151	40	96	23	17	4			13	10	2	0	4		1	1	5		13	2
	百分率	32.1%	20.5%	63.6%	57.5%	11.3%	10.0%			8.6%	25.0%	1.3%	0.0%	2.6%		0.7%	2.5%	3.3%		8.6%	5.0%
50～59	人数	57	13	36	2	6				7	8		2	2	1			2		4	
	百分率	12.1%	18.8%	63.2%	15.4%	10.5%				12.3%	61.5%		15.4%	3.5%	7.7%			3.5%		7.0%	
60～69	人数	40	8	34	3	1				3	5	1								1	
	百分率	8.5%	4.1%	85.0%	37.5%	2.3%				7.5%	62.5%	2.5%								2.5%	
70～79	人数	1	0							1											
	百分率	0.2%	0.0%							100.0%											
80～	人数	2	0									1									
	百分率	0.4%	0.0%									50.0%									
合計		470	195	266	93	43	13	13	4	55	62	8	4	15	5	7	2	17	2	46	10

表5: 主たる使用薬物別にみた職業歴（薬物乱用前）

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤	
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率
農林漁業																		
商人（卸・小売り）	4	1.4%	1	2.3%														
不動産業	1	0.3%					1	1.1%										
金融業							2	2.3%	1	8.3%	1	6.3%						
自営の職人	5	1.7%	1	2.3%									1	10.0%	1	7.1%	2	3.9%
露天・行商	4	1.4%			1	5.6%												
その他の自営業	6	2.1%	1	2.3%			2	2.3%							1	7.1%		
団体役員									1	8.3%								
会社員	13	4.5%	2	4.5%	3	16.7%	10	11.4%	1	8.3%	1	6.3%	1	10.0%	2	15.4%	6	11.8%
店員	7	2.4%			2	11.1%	6	6.8%					1	10.0%			1	2.0%
工員	14	4.9%	2	4.5%			5	5.7%			1	6.3%	1	10.0%			3	5.9%
公務員	2	0.7%					7	8.0%			1	6.3%					1	2.0%
風俗営業関係者	17	5.9%	1	2.3%			5	5.7%			1	6.3%					3	5.9%
風俗営業以外の飲食業関係者	27	9.4%	2	4.5%	1	5.6%	6	6.8%	1	8.3%	2	12.5%			1	7.1%	2	3.9%
興業関係者	1	0.3%																
旅館業関係者							1	1.1%			1	6.3%					1	2.0%
交通運輸業関係者	20	7.0%	1	2.3%			1	1.1%			1	6.3%			1	7.1%	3	5.9%
土木建築業関係者	50	17.5%	8	18.2%	1	5.6%	4	4.5%	1	8.3%					1	7.1%	5	9.8%
日雇い労働者	5	1.7%											1	10.0%			1	2.0%
その他の被雇用者	12	4.2%	2	4.5%	1	5.6%	6	6.8%	1	8.3%			1	10.0%				
医療業業関係	3	1.0%			1	5.6%	10	11.4%	2	16.7%	1	6.3%					2	3.9%
芸能関係	4	1.4%			1	5.6%												
船員	1	0.3%																
小学生	2	0.7%	3	6.8%	1	5.6%									1	7.1%	1	2.0%
中学生	21	7.3%	7	15.9%	3	16.7%	2	2.3%	1	8.3%					1	7.1%	5	9.8%
高校生	15	5.2%	2	4.5%			3	3.4%	1	8.3%	2	12.5%	1	10.0%	1	7.1%	2	3.9%
大学生	2	0.7%					1	1.1%							1	7.1%		
各種学校生	2	0.7%			1	5.6%	3	3.4%			2	12.5%						
主婦	3	1.0%	2	4.5%			3	3.4%	1	8.3%							2	3.9%
家事手伝い	1	0.3%																
無職	25	8.7%	5	11.4%			8	9.1%			2	12.5%	1	10.0%			8	15.7%
不定	13	4.5%	3	6.8%	2	11.1%	1	1.1%							1	7.1%	2	3.9%
その他	6	2.1%	1	2.3%			1	1.1%	1	8.3%					1	7.1%	1	2.0%
計	286	100.0%	44	100.0%	18	100.0%	88	100.0%	12	100.0%	16	100.0%	10	100.0%	13	100.0%	51	100.0%

表6: 主たる使用薬物別にみた職業歴（現在の職業）

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤	
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率
農林漁業	3	1.0%	1	2.2%											1	7.7%		
商人（卸・小売り）															1	7.7%		
不動産業	1	0.3%																
金融業																		
自営の職人	1	0.3%	1	2.2%			1	1.0%										
露天・行商																		
その他の自営業	2	0.6%													1	7.7%		
団体役員																		
会社員	4	1.3%			2	11.8%	5	5.1%									2	4.7%
店員	4	1.3%					3	3.1%									1	2.3%
工員	5	1.6%											1	12.5%				
公務員							4	4.1%										
風俗営業関係者	4	1.3%					1	1.0%										
風俗営業以外の飲食業関係者	7	2.2%	1	2.2%	1	5.9%									1	7.7%		
興業関係者																		
旅館業関係者							1	1.0%										
交通運輸業関係者	4	1.3%																
土木建築業関係者	11	3.5%	2	4.3%													1	2.3%
日雇い労働者			1	2.2%														
その他の被雇用者	3	1.0%	1	2.2%			1	1.0%			1	5.9%						
医療業業関係	4	1.3%			1	5.9%	7	7.1%	1	8.3%	2	11.8%						
芸能関係	2	0.6%			1	5.9%												
船員																		
小学生																		
中学生			1	2.2%	1	5.9%	1	1.0%										
高校生	1	0.3%															1	2.3%
大学生															1	7.7%		
各種学校生	1	0.3%																
主婦	12	3.8%	3	6.5%			6	6.1%	2	16.7%							1	2.3%
家事手伝い	3	1.0%					2	2.0%			1	5.9%						
無職	235	74.6%	35	76.1%	10	58.8%	65	66.3%	8	66.7%	13	76.5%	7	87.5%	8	61.5%	35	81.4%
不定	5	1.6%			1	5.9%											1	2.3%
その他	3	1.0%					1	1.0%	1	8.3%							1	2.3%
計	315	100.0%	46	100.0%	17	100.0%	98	100.0%	12	100.0%	17	100.0%	8	100.0%	13	100.0%	43	100.0%

表7: 対象者全体(N=671)における主たる使用薬物別の現在の配偶関係

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
未婚	153	42.8%	33	58.9%	13	72.2%	52	43.7%	1	8.3%	13	65.0%	7	77.8%	9	47.4%	38	66.7%		
同棲	11	3.0%	1	1.8%			1	0.8%							1	5.3%	1	1.8%		
内縁	16	4.4%			1	5.6%											1	1.8%		
既婚	41	11.4%	6	10.7%	2	11.1%	24	20.2%	5	41.7%	2	10.0%	1	11.1%	3	15.8%	2	3.5%		
別居	8	2.2%							1	8.3%	1	5.0%			1	5.3%			109.573	0.060
離婚	91	25.2%	11	19.6%	2	11.1%	24	20.2%	3	25.0%	4	20.0%	1	11.1%	2	10.5%	12	21.1%		
死別	4	1.1%							1	8.3%							1	1.8%		
再婚	7	1.9%	1	1.8%					1	8.3%					3	15.8%				
不明	30	4.5%	4	7.1%			18	15.1%									2	3.5%		

表8: 対象者全体(N=671)における主たる使用薬物別の反社会的集団との関係、ならびに司法的対応の経験

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
暴力団との関係	266	73.7%	20	35.7%	10	55.6%	33	27.7%	2	16.7%	3	15.0%	1	11.1%	6	31.6%	38	66.7%	132.507	<0.001
乱用前に関係あり	116	32.1%	3	5.4%	2	11.1%	7	5.9%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	1	6.3%	13	22.8%	63.632	<0.001
乱用後に関係あり	80	22.2%	3	5.4%	4	22.2%	7	5.9%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%	14	24.6%	33.317	<0.001
非行グループとの関係	269	74.5%	43	76.8%	14	77.8%	40	33.6%	3	25.0%	8	40.0%	3	33.3%	9	47.3%	42	73.7%	94.050	<0.001
乱用前に関係あり	142	39.3%	25	44.6%	9	50.0%	18	15.1%	1	8.3%	5	25.0%	1	11.1%	5	26.3%	26	45.6%	41.240	<0.001
乱用後に関係あり	33	9.1%	8	14.3%	4	22.2%	8	6.7%	1	8.3%	1	5.0%	0	0.0%	2	10.5%	9	15.8%	10.134	0.518
逮捕・補導歴	265	73.4%	38	67.9%	9	50.0%	33	27.7%	2	16.7%	6	30.0%	2	22.2%	10	52.6%	46	61.4%	117.119	<0.001
乱用前に逮捕・補導歴あり	62	17.2%	10	17.9%	6	33.3%	4	3.4%	1	8.3%	1	5.0%	0	0.0%	1	5.3%	10	17.5%	32.982	0.001
乱用後に逮捕・補導歴あり	215	59.6%	29	51.8%	7	38.9%	15	12.6%	1	8.3%	5	25.0%	1	11.1%	7	36.8%	34	46.8%	102.528	<0.001
矯正施設入所歴	243	67.3%	25	44.6%	7	38.9%	14	11.8%	2	16.7%	3	15.0%	1	11.1%	5	26.3%	36	63.2%	144.177	<0.001
少年鑑別所	43	11.9%	5	8.9%	3	16.7%	2	1.7%	1	8.3%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	15.8%	17.982	0.082
少年院	42	11.6%	7	12.5%	1	5.6%	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	14.0%	17.787	0.087
留置場	69	19.1%	6	10.7%	2	11.1%	7	5.9%	2	16.7%	1	5.0%	1	11.1%	3	15.8%	10	17.5%	16.219	0.133
拘置所	63	17.5%	6	10.7%	1	5.6%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	11	19.3%	31.011	0.001
刑務所	184	51.0%	18	32.1%	1	5.6%	5	4.2%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	1	5.3%	22	38.6%	124.772	<0.001
その他	3	0.8%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9.559	0.570

表9: 主たる使用薬物別の初めて使用した動機

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
誘われて	165	47.1%	21	37.5%	11	61.1%	9	7.6%	0	0.0%	10	50.0%	0	0.0%	7	36.8%	31	54.4%	81.467	<0.001
刺激を求めて	56	16.0%	8	14.3%	2	11.1%	2	1.7%	0	0.0%	2	10.0%	1	11.1%	1	5.3%	14	24.6%	24.433	0.011
好奇心・興味から	123	35.1%	23	50.0%	10	55.6%	9	7.6%	2	15.4%	5	25.0%	2	22.2%	8	42.1%	28	49.1%	53.689	<0.001
断り切れずに	23	6.6%	4	7.1%	3	16.7%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	2	3.5%	13.807	0.244
自暴自棄になって	12	3.4%	2	3.6%	0	0.0%	19	16.0%	1	7.7%	3	15.0%	0	0.0%	1	5.3%	2	3.5%	49.377	<0.001
覚醒効果を求めて	12	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	33.3%	1	5.3%	7	12.3%	39.037	<0.001
疲労の軽減	12	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7.354	0.770
性的効果を求めて	13	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	5.649	0.896
ストレス解消	23	6.6%	7	12.5%	0	0.0%	8	6.7%	3	23.1%	2	10.0%	0	0.0%	4	21.1%	3	5.3%	25.576	0.007
抑うつ気分の軽減	9	2.6%	3	5.4%	0	0.0%	19	16.0%	1	7.7%	2	10.0%	4	44.4%	0	0.0%	5	8.8%	53.363	<0.001
不安の軽減	7	2.0%	1	1.8%	1	5.6%	31	26.1%	3	23.1%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.3%	91.466	<0.001
不眠の軽減	2	0.6%	2	3.6%	1	5.6%	51	42.9%	1	7.7%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	5	8.8%	202.323	<0.001
疼痛の軽減	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	87.266	<0.001
咳そうの軽減	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	32.199	0.001
やせるため	3	0.9%	1	1.8%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2.692	0.994
その他	7	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	10.468	0.487
不明	106	30.3%	14	25.0%	2	11.1%	11	9.2%	3	23.1%	2	10.0%	1	11.1%	2	10.5%	6	10.5%	32.347	0.001

表10: 主たる使用薬物別の初めて使用した契機となった人物

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
自発的使用	17	4.9%	6	10.7%	2	11.1%	30	25.2%	3	23.1%	5	25.0%	1	11.1%	2	10.5%	6	10.5%	48.222	<0.001
配偶者	7	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	2.589	0.995
同棲中の相手	3	0.9%	1	1.8%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	10.256	0.507
恋人・愛人	23	6.6%	1	1.8%	1	5.6%	1	0.8%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.3%	9.537	0.572
同性の友人	133	38.0%	28	50.0%	9	50.0%	12	10.1%	2	16.7%	8	40.0%	1	11.1%	11	57.9%	23	40.4%	54.786	<0.001
異性の友人	33	9.4%	4	7.1%	2	11.1%	3	2.5%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	8.8%	9.666	0.561
知人	28	8.0%	4	7.1%	1	5.6%	4	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	10.5%	5	8.8%	7.185	0.784
精神科医師	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	40	33.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	44.4%	0	0.0%	6	10.5%	169.233	<0.001
身体科医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	8.4%	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	1.8%	47.673	<0.001
精神科・身体科双方の医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.5%	1	8.3%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	31.343	0.001
薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	1	8.3%	1	5.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	32.213	0.001
親	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19.027	0.061
同胞	4	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	6.456	0.841
密売人	17	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	2	3.5%	36.833	<0.001
その他	1	1.0%	1	1.8%	1	5.6%	1	0.8%	1	8.3%	1	0.0%	1	11.1%	2	10.5%	3	5.3%	18.559	<0.001
不明	82	23.4%	13	23.5%	2	11.1%	5	4.2%	1	8.3%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	48.393	<0.001

表11: 主たる使用薬物別の薬物の入手経路

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
友人	18	5.4%	5	9.4%	1	5.9%	5	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	4	7.3%	4.796	0.841
知人	23	6.9%	0	0.0%	1	5.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	2	3.6%	34.832	<0.001
恋人・愛人	7	2.1%	1	1.9%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15.513	0.160
家族	3	0.9%	0	0.0%	1	5.9%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	5.616	0.898
密売人(日本人)	58	17.3%	0	0.0%	4	23.5%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	14.5%	48.869	<0.001
密売人(外国人)	6	1.8%	0	0.0%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	1.8%	85.429	<0.001
精神科医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	65	57.5%	1	8.3%	0	0.0%	5	55.6%	0	0.0%	9	16.4%	285.258	<0.001
身体科医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	7.1%	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	3	5.5%	37.769	<0.001
精神科・身体科両方の医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	15.0%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	71.460	<0.001
薬局	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	7.1%	3	25.0%	14	73.7%	0	0.0%	1	5.3%	5	9.1%	227.560	<0.001
インターネット	2	0.6%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	28.697	0.003
その他	0	0.0%	12	22.6%	1	5.9%	1	0.9%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	57.9%	0	0.0%	156.515	<0.001
不明	60	17.9%	14	26.4%	1	5.9%	1	0.9%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	31.6%	3	5.5%	38.880	<0.001

表12: 主たる使用薬物別のアルコール乱用と薬物使用の経験

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
アルコール問題の既往	97	26.8%	14	25.0%	5	27.8%	35	29.4%	2	15.4%	8	40.0%	1	11.1%	9	47.3%	18	31.6%	14.312	0.216
覚せい剤使用歴	350	100.0%	14	25.0%	16	38.9%	19	16.0%	3	23.1%	7	35.0%	0	0.0%	5	26.3%	42	73.7%	400.246	<0.001
有機溶剤使用歴	146	40.3%	52	92.9%	6	33.3%	6	5.0%	3	23.1%	4	20.0%	1	11.1%	7	36.8%	31	54.4%	143.434	<0.001
大麻使用歴	98	27.1%	8	14.3%	18	100.0%	12	10.1%	2	15.4%	8	40.0%	2	22.2%	4	21.1%	28	49.1%	91.922	<0.001
コカイン使用歴	44	12.2%	0	0.0%	4	22.2%	5	4.2%	0	0.0%	1	5.0%	1	11.1%	2	10.5%	15	26.3%	32.476	0.001
ヘロイン使用歴	11	3.0%	0	0.0%	1	5.6%	2	1.7%	0	0.0%	2	20.0%	0	0.0%	2	10.5%	6	10.5%	42.502	<0.001
MDMA使用歴	38	10.5%	2	3.6%	6	33.3%	7	5.9%	0	0.0%	1	5.0%	1	11.1%	2	10.5%	13	22.8%	36.267	<0.001
マジックマッシュルーム使用歴	14	3.9%	1	1.8%	3	16.7%	1	0.8%	1	7.7%	1	5.0%	1	11.1%	3	15.8%	11	19.3%	54.371	<0.001
LSD使用歴	27	7.5%	2	3.6%	5	27.8%	3	2.5%	0	0.0%	3	15.0%	0	0.0%	2	10.5%	13	22.8%	36.243	<0.001
その他の規制薬物使用歴	16	4.4%	3	5.4%	2	11.1%	4	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	26.3%	4	7.0%	28.146	0.003
睡眠薬使用歴	50	13.8%	8	14.3%	3	16.7%	83	69.7%	2	15.4%	3	15.0%	4	44.4%	3	15.8%	21	36.8%	158.505	<0.001
抗不安薬使用歴	23	6.4%	4	7.1%	3	16.7%	60	50.4%	1	7.7%	3	15.0%	3	33.3%	1	5.3%	12	21.1%	143.150	<0.001
鎮痛薬使用歴	12	3.3%	2	3.6%	1	5.6%	10	8.4%	12	92.3%	2	10.0%	2	22.2%	0	0.0%	8	14.0%	157.837	<0.001
鎮咳薬使用歴	7	1.9%	3	5.4%	1	5.6%	6	5.0%	0	0.0%	20	100.0%	2	22.2%	1	5.3%	12	21.1%	275.886	<0.001
リタリン使用歴	14	3.9%	1	1.8%	1	5.6%	7	5.9%	0	0.0%	2	10.0%	9	100.0%	0	0.0%	13	22.8%	152.545	<0.001
その他の医薬品使用歴	4	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	9	7.6%	1	7.7%	1	5.0%	0	0.0%	2	10.5%	5	8.8%	25.971	0.007

表13: 主たる使用薬物別の過去1年以内における薬物使用の経験

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
覚せい剤	103	29.4%	1	1.8%	0	0.0%	3	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	12	21.1%	25.109	0.122
有機溶剤	2	0.6%	24	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	10.5%	4	7.0%	87.508	<0.001
大麻	7	2.0%	1	1.8%	9	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	8.8%	41.728	0.001
コカイン	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	11.413	0.853
ヘロイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	1.8%	52.597	<0.001
MDMA	3	4.5%	0	0.0%	2	11.1%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	23.461	0.102
マジックマッシュルーム	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
LSD	1	0.3%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19.512	0.146
その他の規制薬物	2	0.6%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	21.1%	0	0.0%	41.123	<0.001
睡眠薬	26	7.4%	3	5.4%	0	0.0%	58	48.7%	2	15.4%	0	0.0%	3	33.3%	1	5.3%	5	8.8%	60.974	<0.001
抗不安薬	11	3.1%	2	3.6%	0	0.0%	37	31.1%	1	7.7%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	4	7.0%	52.011	<0.001
鎮痛薬	2	0.6%	1	1.8%	0	0.0%	4	3.4%	8	61.5%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	3	5.3%	34.908	0.004
鎮咳薬	2	0.6%	1	1.8%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	12	60.0%	1	11.1%	0	0.0%	3	5.3%	227.465	<0.001
リタリン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%	57.493	<0.001
その他の医薬品	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	2	3.5%	29.434	0.021

表14: 主たる使用薬物別の過去1ヶ月以内における薬物使用の経験

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
覚せい剤	41	11.7%	1	1.8%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.3%	13.981	0.730
有機溶剤	2	0.6%	14	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	50.142	<0.001
大麻	4	1.1%	0	0.0%	2	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	12.047	0.845
コカイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
ヘロイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	91.325	<0.001
MDMA	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15.915	0.459
マジックマッシュルーム	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
LSD	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
その他の規制薬物	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	15.8%	0	0.0%	123.739	<0.001
睡眠薬	23	6.6%	2	3.6%	0	0.0%	36	30.0%	2	15.4%	0	0.0%	2	22.2%	1	5.3%	3	5.3%	34.887	0.004
抗不安薬	9	2.6%	1	1.8%	0	0.0%	28	23.5%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	47.351	<0.001
鎮痛薬	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	3	23.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	20.364	0.204
鎮咳薬	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	6	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	38.930	0.001
リタリン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	23.666	0.097
その他の医薬品	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	24.582	0.039

表15: 主たる使用薬物別の初めて使用した薬物

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
覚せい剤	181	51.7%	1	1.8%	0	0.0%	7	5.9%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	3	15.8%	11	19.3%	148.620	<0.001
有機溶剤	132	37.7%	51	91.1%	2	11.1%	4	3.4%	3	23.1%	3	15.0%	1	11.1%	4	21.1%	28	49.1%	150.417	<0.001
大麻	17	4.9%	0	0.0%	16	88.9%	4	3.4%	0	0.0%	4	20.0%	1	11.1%	2	10.5%	6	10.5%	201.498	<0.001
コカイン	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	19.764	0.049
ヘロイン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
MDMA	4	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	1.8%	112.721	<0.001
マジックマッシュルーム	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
LSD	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
睡眠薬	4	1.1%	1	1.8%	0	0.0%	65	54.6%	2	15.4%	1	5.0%	0	0.0%	1	5.3%	5	8.8%	273.182	<0.001
抗不安薬	1	0.3%	1	1.8%	0	0.0%	31	26.1%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	133.895	<0.001
鎮痛薬	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.2%	8	61.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	255.038	<0.001
鎮咳薬	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	10	50.0%	1	11.1%	0	0.0%	2	3.5%	237.528	<0.001
リタリン	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	5	55.6%	0	0.0%	3	5.3%	173.031	<0.001
その他	3	0.9%	1	1.8%	0	0.0%	2	1.7%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	8	42.1%	1	1.8%	181.311	<0.001
不明	10	2.9%	1	1.8%	0	0.0%	7	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	1	5.3%	2	3.5%	6.865	0.810

表16: 主たる使用薬物による薬物使用に関するICD-10のF1診断

		覚せい剤 N=350		有機溶剤 N=56		大麻 N=18		睡眠薬・抗不安薬 N=111		鎮痛薬 N=13		鎮咳薬 N=19		リタリン N=9		その他 N=15		多剤 N=54	
		人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率
主診断	急性中毒	9	2.6%	2	3.6%			18	16.2%							1	5.3%	1	1.9%
	有害な使用	6	1.7%	2	3.6%	2	11.1%	18	16.2%	1	7.7%							2	3.7%
	依存症候群	90	25.7%	26	46.4%	6	33.3%	71	64.0%	10	76.9%	17	89.5%	8	88.9%	14	73.7%	25	46.3%
	離脱状態	1	0.3%					1	9.0%			1	5.3%						
	せん妄を伴う離脱状態			1	1.8%														
	精神病性障害(物質中断後6ヶ月以内)	19	5.4%	2	3.6%	4	22.2%			1	7.7%					1	5.3%	3	5.6%
	精神病性障害(物質中断後6ヶ月以上)	101	28.9%	10	17.9%	4	22.2%							1	11.1%			9	16.7%
	健忘症候群	11	0.3%	0	0.0%											1	5.3%		
	残遺性障害・遅発性精神病性障害	115	32.9%	13	23.2%	2	11.1%	1	0.9%	1	7.7%	1	5.3%			1	5.3%	14	25.9%
	他の精神および行動の障害	8	2.3%					2	1.8%										
副診断	急性中毒	2	0.6%	2	3.6%			4	3.4%							1	5.3%		
	有害な使用	5	1.4%					1	0.8%										
	依存症候群	44	12.2%	7	12.5%	3	16.7%	5	4.2%			2	10.0%			2	10.5%	5	8.8%
	離脱状態	2	0.6%					1	0.8%										
	せん妄を伴う離脱状態	1	0.3%					1	0.8%	1	7.7%								
	精神病性障害(物質中断後6ヶ月以内)	13	3.6%	3	5.4%			1	0.8%			1	5.0%						
	精神病性障害(物質中断後6ヶ月以上)	10	2.8%	3	5.4%	2	11.1%			1	7.7%					1	5.3%	2	3.5%
	健忘症候群	4	1.1%	1	1.8%			6	5.0%							1	5.3%	1	1.8%
	残遺性障害・遅発性精神病性障害	22	6.1%	4	7.1%	3	16.7%	3	2.5%			2	10.0%	2	22.2%			3	5.3%
	他の精神および行動の障害	5	1.4%	2	3.6%	1	5.6%	1	0.8%									1	1.8%

表17: 主たる使用物質による併存精神障害の診断

	覚せい剤	有機溶剤	大麻	睡眠薬・抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	その他	多剤	χ^2	P
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数		
F0 症状性を含む器質性精神障害	6 1.7%	3 5.4%		1 0.8%	1 7.7%				1 1.8%	8.831	0.357
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	40 58.8%	8 14.3%	2 11.1%	4 3.4%		4 20.0%	2 22.2%		8 14.0%	15.466	0.051
F3 気分(感情)障害	43 11.9%	9 16.1%	2 11.1%	45 45.0%	8 61.5%	5 25.0%	1 11.1%	3 15.3%	19 33.3%	58.182	<0.001
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	25 6.9%	2 3.6%	2 11.1%	21 17.6%	3 23.1%	3 15.0%		1 5.3%	2 3.5%	23.266	0.003
F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	4 1.1%	1 1.8%		21 17.6%		1 5.0%			1 1.8%	66.701	<0.001
F6 成人の人格および行動の障害	42 11.6%	8 14.3%		30 25.2%	2 15.4%	2 10.0%		3 15.8%	10 17.5%	18.853	0.016
F7 精神遅滞(知的障害)	11 3.0%	3 5.4%		2 1.7%	1 7.7%	1 5.0%		1 5.3%	2 3.5%	4.236	0.835
F8 心理的発達の障害	2 0.5%	1 1.3%		4 3.4%		2 10.0%				18.339	0.019
F9 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	1 0.3%							2 10.5%		16.637	0.034
F10: その他の精神障害	1 0.3%	1 1.8%		3 2.5%		2 10.0%			1 1.8%	15.733	0.121

表18: 対象者全体(N=671)における主乱用薬物別の生育史上の問題

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
15歳以前の親との離別	72	19.9%	16	28.6%	4	22.2%	21	17.6%	3	23.1%	5	25.0%	2	22.2%	5	31.3%	19	33.3%	9.728	0.555
不登校	39	10.8%	8	14.3%	3	16.7%	8	6.7%	1	7.7%	3	15.0%	2	22.2%	3	18.8%	12	21.1%	11.284	0.420
いじめられ体験	29	8.0%	7	12.5%	2	11.1%	13	10.9%	0	0.0%	2	10.0%	3	33.3%	2	12.5%	7	12.3%	18.968	0.062
身体的虐待	31	8.6%	7	12.5%	1	5.6%	10	8.4%	1	7.7%	2	10.0%	1	11.1%	3	18.8%	7	12.3%	3.987	0.970
性的虐待	5	1.4%	0	0.0%	1	5.6%	7	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.3%	13.525	0.280
心理的虐待	21	5.8%	1	1.8%	3	16.7%	9	7.6%	1	7.7%	2	10.0%	1	11.1%	4	25.0%	5	8.8%	14.795	0.192
その他の虐待	2	0.6%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	3.838	0.974

表19: 男性対象者全体(N=475)における主たる使用薬物別の生育史上の問題

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
15歳以前の親との離別	43	18.0%	11	25.8%	3	21.4%	7	12.5%	2	25.0%	2	13.3%	1	14.3%	4	21.1%	15	31.9%	11.205	0.342
不登校	20	7.5%	4	9.3%	3	21.4%	5	8.9%	1	12.5%	0	0.0%	1	14.3%	2	10.5%	8	17.0%	9.213	0.512
いじめられ体験	15	5.6%	4	9.3%	1	7.1%	7	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	2	10.5%	4	8.5%	11.100	0.350
身体的虐待	18	6.7%	4	9.3%	1	7.1%	4	7.1%	1	12.5%	2	13.3%	0	0.0%	3	15.8%	5	10.6%	5.731	0.837
性的虐待	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
心理的虐待	11	4.1%	1	2.3%	1	7.1%	4	7.1%	1	12.5%	1	6.7%	1	14.3%	4	21.1%	3	6.4%	16.598	0.084
その他の虐待	1	0.4%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4.428	0.926

表20: 女性対象者全体(N=196)における主たる使用薬物別の生育史上の問題

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
15歳以前の親との離別	29	31.2%	5	38.5%	1	25.0%	14	22.2%	1	25.0%	3	60.0%	1	50.0%	1	50.0%	4	40.0%	8.160	0.518
不登校	18	19.4%	4	30.8%	0	0.0%	3	4.8%	0	0.0%	3	60.0%	1	50.0%	1	50.0%	4	40.0%	26.919	0.001
いじめられ体験	14	15.1%	3	23.1%	1	25.0%	6	9.5%	0	0.0%	2	40.0%	1	50.0%	1	50.0%	3	30.0%	14.407	0.109
身体的虐待	13	14.0%	3	23.1%	0	0.0%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	2	20.0%	7.119	0.625
性的虐待	5	5.4%	0	0.0%	1	25.0%	7	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	30.0%	11.878	0.220
心理的虐待	10	10.8%	0	0.0%	2	50.0%	5	7.9%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	20.0%	11.255	0.259
その他の虐待	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	8.945	0.442

表21: 対象者全体(N=671)における主たる使用薬物別の過去1年以内の自己破壊的行動

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
過去1年以内の自己破壊的行動	38	10.5%	7	12.5%	3	16.7%	40	33.6%	5	38.5%	5	25.0%	2	22.2%	6	31.6%	10	17.5%	47.315	<0.001
複数回エピソード	23	63.9%	4	66.7%	2	66.7%	27	67.5%	2	40.0%	2	50.0%	2	100.0%	5	83.3%	9	90.0%	5.830	0.757
自己切傷(四肢)	18	47.4%	7	100.0%	2	66.7%	14	35.0%	2	40.0%	4	80.0%	1	50.0%	3	50.0%	7	70.0%	25.005	0.009
自己切傷(頭部・体幹)	4	10.5%	3	42.9%	1	33.3%	3	7.5%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.0%	1	10.0%	9.909	0.959
服薬(毒物・規制薬物)	4	10.5%	3	42.9%	0	0.0%	5	12.5%	1	20.0%	1	25.0%	0	0.0%	2	33.3%	5	50.0%	19.029	0.081
服薬(医薬品)	17	44.7%	2	28.6%	0	0.0%	28	70.0%	3	60.0%	1	25.0%	1	50.0%	2	33.3%	3	30.0%	60.682	<0.001
縊首	8	21.1%	3	42.9%	0	0.0%	3	7.5%	1	20.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	16.0%	2	20.0%	4.969	0.933
高所からの飛び降り	6	31.6%	0	14.3%	0	0.0%	3	7.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	20.0%	4.072	0.968
鉄道・自動車などへの飛び込み	3	0.8%	1	1.8%	0	0.0%	1	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1.895	0.999
溺水	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.0%	0	0.0%	41.124	<0.001
その他の自己破壊的行動	6	31.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.5%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5.225	0.920

表22: 男性対象者(N=475)における主たる使用薬物別の過去1年以内の自己破壊的行動

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
過去1年以内の自己破壊的行動	15	5.6%	3	7.0%	1	7.1%	10	17.9%	3	37.5%	2	13.3%	2	28.6%	4	23.5%	6	12.8%	25.690	0.004
複数回エピソード	8	53.5%	1	33.3%	0	0.0%	5	62.5%	2	66.7%	1	50.0%	2	100.0%	3	75.0%	6	100.0%	9.872	0.275
自己切傷(四肢)	4	26.6%	3	100.0%	0	0.0%	1	10.0%	1	33.3%	1	50.0%	1	50.0%	1	25.0%	4	66.7%	15.040	0.131
自己切傷(頭部・体幹)	2	13.4%	1	33.3%	0	0.0%	1	1.8%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	16.7%	11.421	0.326
服薬(毒物・規制薬物)	2	13.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	20.0%	1	33.3%	1	50.0%	0	0.0%	2	50.0%	3	50.0%	21.282	0.019
服薬(医薬品)	6	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	80.0%	1	33.3%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	29.074	0.001
縊首	3	20.0%	1	33.3%	0	0.0%	2	20.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	16.7%	9.182	0.510
高所からの飛び降り	4	26.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	4.098	0.943
鉄道・自動車などへの飛び込み	1	6.7%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4.428	0.926
溺水	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—
その他の自己破壊的行動	3	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6.286	0.791

表23: 女性対象者(N=196)における主たる使用薬物別の過去1年以内の自己破壊的行動

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
過去1年以内の自己破壊的行動	23	24.7%	4	5.7%	2	5.0%	30	47.6%	2	50.0%	3	60.0%	0	0.0%	2	100.0%	4	40.0%	15.700	0.073
複数回エピソード	15	71.4%	3	75.0%	2	100.0%	22	75.9%	0	0.0%	1	33.3%			2	100.0%	3	75.0%	8.842	0.356
自己切傷(四肢)	14	60.9%	4	100.0%	1	100.0%	13	43.3%	1	50.0%	3	100.0%			2	100.0%	3	75.0%	17.645	0.040
自己切傷(頭部・体幹)	2	8.7%	2	50.0%	1	50.0%	2	6.7%	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	12.027	0.212
服薬(毒物・規制薬物)	2	8.7%	3	75.0%	0	0.0%	3	10.0%	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	2	50.0%	15.862	0.070
服薬(医薬品)	11	47.8%	2	50.0%	0	0.0%	20	66.7%	2	100.0%	0	0.0%			2	100.0%	3	75.0%	22.746	0.007
縊首	5	21.7%	2	50.0%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	1	33.3%			0	0.0%	1	25.0%	7.893	0.545
高所からの飛び降り	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.7%	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	1.244	0.943
鉄道・自動車などへの飛び込み	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	0.860	1.000
溺水	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	1	25.0%	196.000	<0.001
その他の自己破壊的行動	3	13.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.7%	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	1.316	0.998

表24: 対象者全体(N=671)における主たる使用薬物別の精神疾患家族歴

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
精神疾患の家族歴	811	30.3%	12	24.0%	4	26.7%	21	21.4%	5	41.7%	10	55.6%	1	11.1%	5	33.3%	15	34.1%	12.746	0.012

表25: 対象者全体(N=671)における主たる使用薬物別の精神病性エピソードの既往

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤		χ^2	P
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率		
精神病性エピソードの既往あり	241	66.8%	36	64.3%	8	44.4%	22	18.5%	2	16.7%	7	35.0%	3	33.3%	6	31.6%	36	63.2%	104.004	<0.001

表26: 覚せい剤使用経験者の覚せい剤使用方法(N=396)

	人数	百分率
経口摂取	11	2.8%
静脈注射	249	62.9%
吸引	3	0.8%
加熱吸煙	89	22.5%
喫煙	0	0.0%
経鼻吸引	6	1.5%
その他	0	0.0%
不明	65	16.4%

表27: 有機溶剤使用経験者が使用した有機溶剤の種類(N=30)

	人数	百分率
シンナー	18	60.0%
トルエン	6	20.0%
ラッカー	5	16.7%
ボンド	5	16.7%
ガス類	4	13.3%

表28: 大麻使用経験者が用いた大麻の種類(N=14)

	人数	百分率
マリファナ	12	85.7%
大麻樹脂	4	28.6%
ハシシオイル	1	7.1%

表29: 睡眠薬使用経験者が使用した睡眠薬の種類(N=83)

	人数	百分率
トリアゾラム	28	33.7%
フルニトラゼパム	40	48.2%
ブロムワレリル尿素	4	4.8%
ウット	9	10.8%
ブロチゾラム	5	6.0%
ニトラゼパム	6	7.2%

表30: 対象者全体(N=671)における主たる使用薬物別の受診経路

	覚せい剤		有機溶剤		大麻		睡眠薬・抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬		リタリン		その他		多剤	
	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率
自発的な受診	83	24.6%	5	9.6%	3	17.6%	14	12.6%	0	0.0%	2	10.0%	1	11.1%	4	21.1%	10	18.2%
周囲のすすめ	64	19.0%	18	34.6%	4	23.5%	38	34.2%	6	46.2%	5	25.0%	2	22.2%	5	26.3%	8	14.5%
医療機関	47	13.9%	12	23.1%	3	17.6%	51	45.9%	5	38.5%	4	20.0%	2	22.2%	1	5.3%	9	16.4%
保健福祉・行政機関	40	11.9%	4	7.7%	2	11.8%	2	1.8%	1	7.7%	2	10.0%	2	22.2%	3	15.8%	3	5.5%
刑事司法機関	38	11.3%	5	9.6%	3	17.6%	3	2.7%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	1.8%
民間リハビリ施設・自助グループ	60	17.8%	7	13.5%	2	11.8%	3	2.7%	0	0.0%	7	35.0%	2	22.2%	4	21.1%	24	43.6%
その他	5	1.5%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表31: 精神科治療薬乱用者154名における向精神薬入手経路

		全体 N=154		男性 N=88		女性 N=66		df	χ^2	P
		人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率			
向精神薬の入手経路	友人	8	5.2%	6	6.8%	2	3.0%	1	1.099	0.295
	知人	4	2.6%	1	1.1%	3	4.5%	1	1.733	0.188
	恋人・愛人							1	—	—
	家族	2	1.3%	1	1.1%	1	1.5%	1	0.042	0.837
	密売人(日本人)	1	0.6%	1	1.1%			1	0.755	0.385
	密売人(外国人)							1	—	—
	精神科医師**	77	50.0%	36	40.9%	41	62.1%	1	6.788	0.009
	身体科医師	15	9.7%	7	8.0%	8	12.1%	1	0.745	0.388
	精神科・身体科両方の医師	24	15.6%	13	14.8%	11	16.7%	1	0.103	0.748
	薬局	2	1.3%	2	2.3%			1	1.520	0.218
	インターネット	2	1.3%	0	0.0%	2	3.0%	1	2.707	0.100
	その他	3	1.9%	2	2.3%	1	1.5%	1	0.113	0.736
	不明	16	10.4%							

表32: 精神科治療薬乱用者における他薬物使用経験

		全体 N=154		男性 N=88		女性 N=66		df	χ^2	P
		人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率			
他の薬物使用歴	覚せい剤	63	40.9%	40	45.5%	23	34.8%	2	3.949	0.139
	有機溶剤	38	24.6%	26	29.5%	12	18.2%	2	3.732	0.155
	大麻	41	26.6%	29	33.0%	12	18.2%	2	3.745	0.154
	コカイン	18	11.7%	14	15.9%	4	6.1%	2	3.672	0.159
	ヘロイン	7	4.5%	4	4.5%	3	4.5%	2	0.368	0.832
	MDMA	23	14.9%	15	17.0%	8	12.1%	2	0.743	0.690
	マジックマッシュルーム	9	5.8%	6	6.8%	3	4.5%	2	0.374	0.829
	LSD	13	8.4%	9	10.2%	4	6.1%	2	0.641	0.726
	鎮痛薬	25	16.2%	12	13.6%	13	19.6%	2	4.581	0.101
	鎮咳薬	18	11.7%	11	12.5%	7	10.6%	2	0.510	0.775

表33: 精神科治療薬乱用者の併存精神障害

		全体 N=154		男性 N=88		女性 N=66		df	χ^2	P
		人数	百分率	人数	百分率	人数	百分率			
併存精神障害	F0 症状性を含む器質性精神障害	1	0.6%	1	1.1%			1	0.755	0.385
	F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	8	5.2%	5	5.7%	3	4.5%	1	0.990	0.753
	F3 気分(感情)障害**	50	32.5%	20	22.7%	30	45.5%	1	8.885	0.003
	F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害*	23	14.9%	8	9.1%	15	22.7%	1	5.520	0.019
	F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群**	16	10.4%	3	3.4%	13	19.7%	1	10.747	0.001
	F6 成人の人格および行動の障害***	37	24.0%	7	8.0%	30	45.5%	1	29.055	<0.001
	F7 精神遅滞(知的障害)	4	2.6%	4	4.5%			1	3.080	0.079
	F8 心理的発達の障害	4	2.6%	4	4.5%			1	3.080	0.079
	F9 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害							—	—	—

表34: 乱用されていた精神科治療薬の種類

薬剤の一般名	認められた症例数
flunitrazepam	69
triazolam	45
etizolam	44
zolpidem	37
brotizolam	21
Vegetamine®	21
bromazepam	20
methylphenidate	17
nimetazepam	15
alprazolam	14
nitrazepam	13
diazepam	12
paroxetine	11
levomepromazine	8
quazepam	8
estazplam	7
cloxazolam	6
lorazepam	6
quetiapine	6
risperidone	5
fluvoxamine	4
amoxapine	4
sulpiride	4
pentpbarbital	3
chrolpromazine	3
pemoline	3
imipramine	3
olanzapine	3
clotiazepam	3
lormetazepam	3
aripiprazole	2
clonazepam	2
ethyl loflazepate	2
mianserin	2
blonanserin	2
trazodone	2
clomipramine	2
amobarbital	2
bromvalerylurea	2
trihexyphenidyl	1
haloperidol	1
perphenazine	1
propericiazine	1
sertraline	1
valprate acid	1
modafinil	1
mirtazapine	1

図1: 乱用された精神科治療薬の種類（10症例以上で乱用が見られた薬剤のみ）

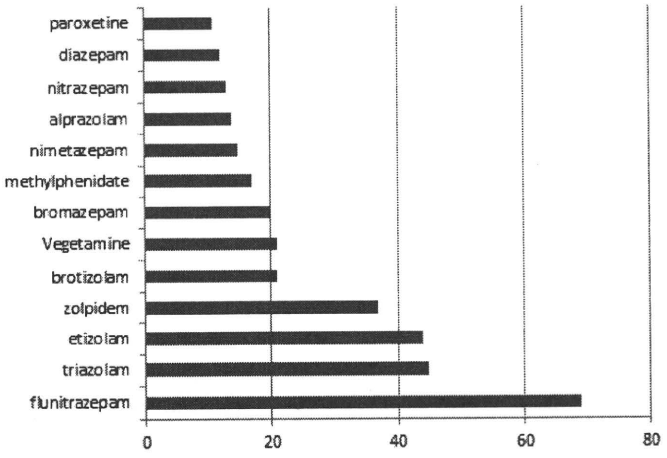


図2: 主たる使用薬物別こみた症例(%)の推移

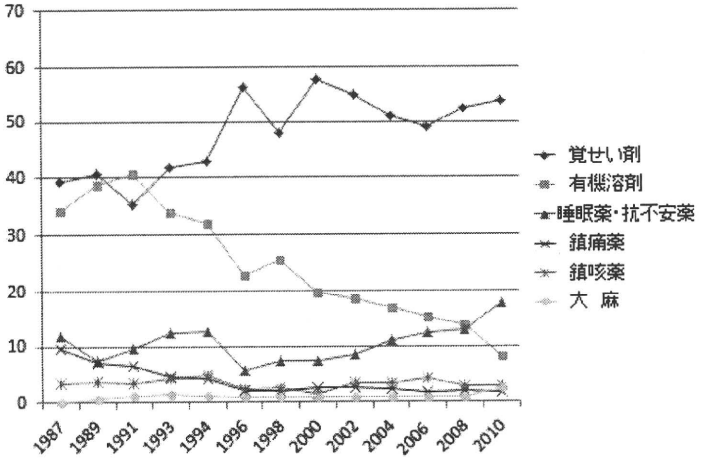
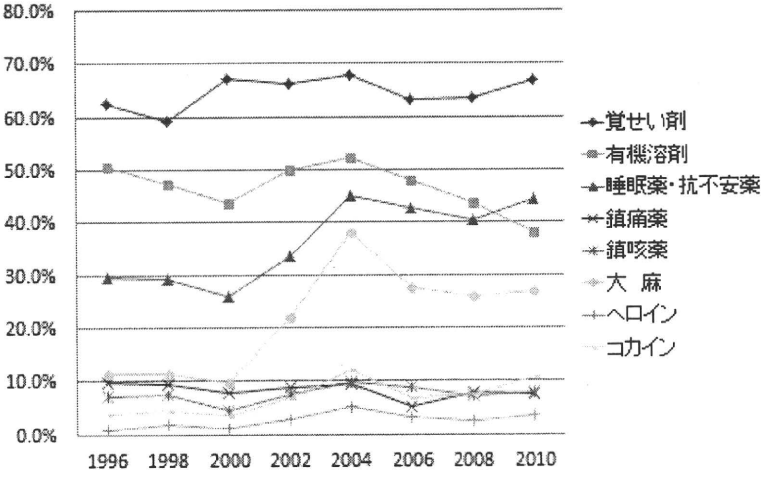


図3: 使用歴のある薬物の推移



分担研究報告書
(1－3)

平成22年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）
分担研究報告書

全国の児童自立支援施設における薬物乱用・依存の意識・実態に関する研究

研究分担者　庄司正実　目白大学
研究協力者　妹尾栄一　東京都精神医学総合研究所
研究協力者　富田　拓、相澤　仁、小柳紘介　国立武蔵野学院
研究協力者　宇佐見兼市　国立きぬ川学院

研究要旨　この研究の目的は，薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物への意識および実態を把握することである．この目的のため，全国の児童自立支援施設に入所中の児童に質問紙調査を実施した．有効調査人数は，1064 人(男性 739 人，女性 325 人)であった．調査により以下のような結果が得られた：1)有機溶剤乱用者数は男性 53 人(7.2%)女性 93 人(28.6%)，大麻乱用者数は男性 14 人(1.9%)女性 41 人(12.6%)，覚せい剤乱用者数は男性 3 人(0.4%)女性 27 人(8.3%)，ブタン乱用者数男性 67 人(9.1%)女性 70 人(21.5%)であった．その他，抗不安薬(安定剤)乱用が男性 30 人(4.1%)女性 70 人(21.5%)，ブロン(咳止め液)乱用が男性 18 人(2.4%)女性 42 人(12.9%)に認められた．従来の結果と同様にすべての薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった．2)1994 年度からの薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである．有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した．特に男性においてこの傾向が著しく，1994 年 41.2%から 2006 年以降 10%前後に減少し今回は 7.4%となった．女性でも 1994 年 59.6%から 2006 年以降 30%となっていたが，今回さらに減少し 22.9%となった．覚せい剤乱用は男女とも 2000 年ころまでやや増加傾向にあったが，2002 年以降減少傾向を示しており，男性は 2006 年以降 1%以下で，女性は 2008 年以降 10%以下となった．大麻乱用頻度について，男性は 4%から 5%前後であったが今回は 1.9%となり，一方女性では 1994 年(22.0%)および 1996 年(19.0%)はやや高かったが 1998 年から 14%から 15%台であり今回も大金変化はなかった．3)有機溶剤乱用に対する態度の年代変化を検討したところ，1998 年以降大きな変化は見られなかった．ことのことより近年の有機溶剤乱用頻度の減少と児童の薬物乱用への態度はあまり関係がないと考えられた．一方，入所非行児の非行歴を検討した結果非行程度がやや軽度化している傾向が疑われた．

児童自立支援施設入所児童は薬物乱用のハイリスクグループである．今回の調査により児童の乱用薬物が従来のように有機溶剤中心ではなくなってきていることを示している．今後とも継続的に実態を把握していくことが必要である．

A　研究目的

われわれは，1994 年度より 2008 年度まで隔年ごとに児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態を全国調査してきた[1)-7)]．その結果，有機溶剤乱用者は男女とも低下してきており特に男性における低下が顕著であるという結果が得られている．また，覚せい剤乱用は男女とも 2000 年ころまで増加傾向にあったが，2002 年以降減少傾向を示していた．大麻乱用頻度について男性は 4%から 5%前後であり女性では 1998 年以降は 14%から 15%台であまり変化はなかった．

これら各種薬物の非行少年における乱用実態を